

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101208		
法人名	オーロラ・ケアネット株式会社		
事業所名	うらの郷ミニ大通・グループホーム		
所在地	札幌市中央区北3条西12丁目2番2号		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0170101208-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・チームケア ・ケアでの課題についてなど、スタッフ全員で話し合い・意見し合い、同じ方向でケアが出来るよう取り組んでいる。 ・入居者間でも会話が多く、お互いを支え合っている。 ・バランスを考えた食事。創意工夫し個々に合わせて提供している。手作りの物が多く、皆で一緒に作る機会も度々。 ・入居者それぞれに合わせたケア。変化にいち早く気付き対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市中心部の大通り公園や植物園に近い、恵まれた住環境にある1ユニットのグループホームである。建物は3階建てで、3階に当グループホームがあり、1、2階には法人事務所やデイサービスが併設されている。共用空間は広く清潔で、ソファを多く配置し、本棚や電子ピアノを置いて家庭的な雰囲気となっている。各居室には広いベランダがあって眺めが良く、温度や湿度、明るさも適切に保たれている。職員は利用者に優しい言葉で接し、利用者の表情も明るい。地域との交流があり、ミニ大通り公園の夏祭りや近くの保育園の行事に利用者が参加している。また、運営推進会議に多数の家族の参加を得て、意見を運営に反映している。ケアマネジメントの面では、アセスメントシートを定期的にきめ細かく作成し、介護計画の見直しにあたっては、モニタリングやアセスメント、カンファレンスの要点などの書類が整備されている。職員の介護計画の理解度も高い。食事の面では、昼と夜は食材会社から献立や食材が提供されるが、利用者が各種の作業に参加し、美味しい食事が提供され、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。手まり寿司や鉄板焼き、夏祭りのバーベキューなど特別メニューの機会も多い。管理者を中心に職員の教育に力を入れ、サービス評価の作成にあたっては全職員で取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、ホームの理念を掲示し、申し送り時・会議時に唱和、共有し、チームケアとしての実践に繋げている。ケアでの課題が出た際には、理念を振り返り、そのために何が必要かと話し合っている。	7～8年前に見直したグループホーム独自の理念を共用空間やパンフレットに示し、申し送りや会議の際に唱和している。また、法人理念の中に地域密着型サービスを意識した文言を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園の行事に招かれたり、ミニ大通の祭りに参加する機会もその都度あり。今年も七夕には町内会の子供達が「ろうそく出せ」に来てくれて、交流を図る事が出来た。又普段の買い物でも近所の人や店員さんと自然に会話を交わしている。	散歩の際に住民と交流するほか、近くのミニ大通公園で行われる地域のお祭りに利用者と共に参加している。近くの幼稚園の生活発表会や運動会、入園式にも招待され、交流している。高校生のボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れ、ホーム通信、自社ホームページでも啓発に取り組んでいる。ホーム通信は1階エレベーター前に貼って来客者に見てもらえるようにしており、又折々の機会に町内会や幼稚園などにも送っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施、構成員の他、入居者やご家族や職員も参加し報告すると共に、希望や意見を活かすよう努めている。当社のデイ職員を講師に体操を体験してもらったり、ご家族のリクエストのテーマでの勉強会を行うなど、興味を引く内容を常に考えている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、民生委員、多数の利用者家族が参加している。自治会役員にも避難訓練と同時に行う会議で参加を得ている。マイナンバーや防災、地域包括の役割、薬、外部評価などをテーマに意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの空き状況をお伝えしたり、分らない事などを都度教えて頂きながら、ケアサービスに取り組んでいる。又地域包括の方に勉強会の講師をして頂く機会もあり、ケアや知識の向上に努めている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て情報提供を受けている。また、市や区の管理者会議にも出席し、情報交換している。管理者は不明な点や疑問点を担当者に電話で相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	11項目は目に付くところに掲示しており、又その場で不適切なケアにならないよう、職員同士でも注意し合っている。今後外部研修にも参加し、会議で報告し皆で再確認する予定。	身体拘束を行っておらず、身体拘束の具体的な禁止行為を記した掲示物を事務所や共用空間に設置している。身体拘束が関係する外部研修後の報告会でも内容を共有している。ユニットから1階に下りるエレベーターに自由に乗ることができ、出入の際は鈴が鳴って分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティング、ケアの中で気付いた時には声かけし合い、振り返り、防止に努めている。今後外部研修にも参加し、会議で報告し皆で再確認する予定。又正しい言葉遣いの声かけを個人目標に挙げている職員もいる。		

うららの郷ミニ大通・グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加などで学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の時間を設け、重要事項説明書を用い充分に説明し、ご家族の希望や不安などを聞き、記録に残し誤解が生じないように理解して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に積極的に意見や希望を求め、家族ノートを作成し職員間で共有、速やかに対応する事を心がけている。又ケアプランの説明前後にも利用者・ご家族に希望や意向を聞いている。	運営推進会議に多数の家族の参加があり、多くの意見を得ることができている。来訪時やケアプラン説明時における家族の意見を個別の「家族ノート」に記録し、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、月例会議、個人面談などで意見や提案が出やすい環境作り心掛け、1人1人ただ業務をこなすのではなく、自分なりに考え、悩み、色々と工夫する力をつけてきている。それぞれがホーム通信作成、備品や食事関係の担当などの役割を分担しており、運営参加の意識を持っている。	月1回の月例会議や毎朝の申し送りで職員同士、活発な意見交換を行っている。年2回、管理者と職員の面談も行っている。職員はそれぞれ、行事や備品、食事などの係を分担し、運営に参加している。職員同士のコミュニケーションも良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度、キャリアパス制度を導入し、公正に評価、処遇し働きやすい職場環境を作っている。業務のフォローもしてくれている。が、現状として個人面談の機会は減っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせた外部研修への参加をさせてくれ、会社全体での研修も年に数回あり、振り返りの機会になっている。又新人職員のシフトは慣れるまで先輩職員がつく等、出来る限りの配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の研修会への参加で、他事業所の意見を聞いたり交流する機会があり、新たな発見や良いケアにつなげる事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活歴、心身の状態などアセスメントを行い、職員間で共有している。入居後も細めに声かけし一緒に過ごすよう工夫し、何を求めているか探りケアへつなげている。又センター方式シートも使い、より利用者の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面談時にご家族の思いや悩みを傾聴し、困っている事が解決出来るよう話し合いを行い、互いに共有し安心出来る関係作りに努めている。又家族ノートを作成し、全職員にも浸透している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会議・日々のミーティングで情報の共有とケアの方向性などを細めに話し合っている。得た情報を記録に残し、見極めのヒントに活用。又併設の居宅支援事業所などの協力も、すぐに得られる体制である。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に一緒に出来る事を見つけ、行っている。そのためこちらが声をかけなくてもフォローしてくれたり、助け合う関係が出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも報告する事で、短い面会時ではわからない姿に「まだそんな事出来たの？」と驚く事も。又職員では解決出来ない不安時は、電話で会話してもらうなど安心に繋げる場面もある。「何か出来る事ある？」とご家族から声をかけてもらう事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人の面会後、また来て頂けるよう声かけしたり、電話のとりつき、手紙の投函などの支援を行う。遠方のご家族には、日常の様子を綴った手紙や写真を送る事もある。	2～3名ほどの利用者に友人が来訪しており、電話の使用を支援したり、友人から手紙を受け取った際に事業所で利用者の写真に言葉を添えて返送することもある。家族の支援で馴染みの美容院を利用している方もいる。近くの生協やコンビニエンスストアも馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々入居者同士フォローしている場面も多い。楽しいおしゃべりだけではなく、落ち込んでいたり困っている時に優しく声をかけ合ったりと、良い関係が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先を見舞ったり、外でご家族に会った時は状況を尋ねている。ご家族同士がバツリ会い、話をしたという事も。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室掃除や入浴時など一対一で話せる時間を大切に、本人の言葉を引き出し記録に残す工夫をしている。又言葉以外にも表情や行動からも思いを汲み取り、困難な場合も役立てている。	半分以上の利用者が言葉で思いや意向を表現でき、難しい方の場合も過去の経験などから把握している。センター方式のアセスメントシートを6ヵ月毎に詳しく作成し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントの他、都度ご本人、ご家族から聞き取り記録し、職員間で共有。食事時間等さりげなく話せる機会も作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かな引継ぎ、観察、話し合い情報共有に努めている。個別にその日の状況を見極め、穏やかに暮らせるよう配慮している。記録上でも変化時にはマーカーで色分けしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の意見や希望、事前の職員間での意見交換、記録から丹念にニーズを汲み取った上で、3ヵ月毎にチームとして密なケアプランを作成。記録は5色に色分けし、更新計画の作成や対応に活かせるよう工夫している。	介護計画を3ヵ月毎に見直ししている。見直し時にモニタリング表、アセスメントシートなどを作成し、カンファレンスで意見集約している。生活(暮らし)の記録はケアプランの番号を記載しながら、利用者の様子や支援内容を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の実践・結果・気づき・工夫等ポイント毎にマーカーで色分けを実践中。変化があれば、3ヵ月を待たずにプランの見直しをしたりと、すぐに対応出来るよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスの行事に参加している。他部署の職員の運転で動物園や外食に行く機会もあった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・散歩・祭りなどに行き、町内の人と関わる機会も度々。近所の人に花をもらい、喜んで戻ってくる姿もあった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、週1回の訪問看護で、気になる事を聞いたり、相談出来、入居者の安心に繋がっている。時にご家族も同席しDrと話して現状の把握に繋がっている。	協力医による月1～2回の往診を全員が受診しており、歯科医による定期受診もある。また、週1回訪問看護を受けている。受診内容は個人ごとの「医療連絡ノート」に詳しく記載し、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護や24時間体制での連絡体制にて、細かな健康状態の報告や相談を行っており、すぐにDrに連絡、適切な往診・受診・看護へと繋がっている。内容は医療ノートに記入し、全職員で共有。又看取りについての講義も開催してくれた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供をしている。入院中は見舞いに行ったり、ご家族と連絡をとり、ホームの生活に戻れる段階の把握や、今後にむけての相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し、入居時同意書を得ている。又Drやご家族とも必要に応じ話し合い、希望や今後の方向性を検討している。全職員でも話し合ったり、訪看に看取りの講義をしてもらったりと、前向きに取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」を説明し、同意書を得ている。事業所では過去に2名の看取りを経験しており、今後も条件が合えばできるだけ看取りへと向かう方針としている。看取りに関する勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを配置、外・内部研修、防火訓練への参加で知識を深め予防対策に努めている。AEDの講習会も実施予定。会議にて初期対応について全職員で確認する機会も作った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら、年2回避難訓練を実施。町内会の方にも見学してもらい、運営推進会議の場で意見を頂く機会もあった。	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防署や地域の協力のもと行っており、職員の救急救命訓練も行っている。災害時に必要な備蓄品も用意している。地震等の災害に対するマニュアルがあるが、定期的な確認等は行っていない。	地震等、火災以外の災害についても定期的にマニュアルを確認したり、災害への事前の備えや、災害発生時の具体的な対応について職員間で話し合いを行うことを期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に合った声のトーンや、声かけの工夫を常に心がけている。職員間でも常に注意合っている。	利用者には「～さん」と呼んでおり、職員の採用時や研修では、接遇や介護におけるタブー、禁句について統一をしながら日々のケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行きたい所や食べたい物を外出レクで反映させたり、表情や態度からも察し、希望に近付けるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先だったり、せかすようなケアをしないよう日々声かけし合い、意識している。天気の良い日は散歩したりと、入居者優先になるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでもらったり、その人の好みを理解するよう心がけている。「きれいにしてくれてありがとう」と感謝の言葉も。ベツメイクも都度、気配りしている。		

うららの郷ミニ大通・グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートで一緒に作ったり、盛り付けや片付けなど台所に立てない人でも参加できるよう工夫している。又食事中は会話も大事にし、楽しい時間になるよう心がけている。	昼・夕食の食材とメニューは一括して配達されているが、外食や季節毎の行事食や手作りバイキング、バーベキューや手巻寿司などを作り、利用者の楽しみになっている。米とぎ等も利用者に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、チェックしている。又個人に合った量の調整やミキサー、トロミ、食べやすい大きさへのカットなど見ためも大事にしながら工夫している。他生活サイクルに合わせ、時間をずらすなどの配慮も。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、朝・昼・夜の口腔ケアを徹底している。就寝前の義歯洗浄も同様。個人に合わせ、スポンジなども併用。又訪問歯科を利用している方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間・習慣・体調などから個々に合わせた声かけ・誘導・介助をしている。トイレ誘導、ポータブル介助の使用で出来る限り座位での排泄継続に繋げている。	3分の1程の方は自力でトイレに行くことができ、夜間の排泄を記録している。その他の方は排泄状況をすべて記録し、羞恥心に配慮しながら誘導している。パット類は各居室に保管し、使用時にトイレに運んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動、乳製品、プルーンの利用、腹部マッサージなどを行っている。又Drと相談し、下剤の調整や訪看での対応もしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	負担にならないよう介助の工夫や休息出来るよう時間の配慮をしている。好みの湯の温度調整や付き添うタイミングなども細かく対応している。	毎日午後3時から夕食前の時間帯に、3名から4名が入浴をしている。利用者は週に2度から3度、同性職員との会話でリラックスしながら穏やかな気持ちで入浴が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間で決めず、表情や日々の習慣を大事に休息を勧めている。掛け物の工夫、細めに様子を見に行く等の気配りも。又夜間の睡眠状況によっては、延食するなどの対応も随時行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルはすぐ目を通せる所に配置。変更時はノート・ボードに記入。又内服後の変化なども記録に残し、共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事や買い物、カラオケなどを実施。得意な料理などは職員がフォローに回り、入居者が中心となって作ったりなど、出来るだけ入居者が主役になるよう支援。		

うららの郷ミニ大通・グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪のない季節は外出レクや買い物、散歩など外へ出る機会が多い。ご家族と散歩し、鳩のエサやりに行く習慣の入居者も。	利用者は、近くのコンビニや生協、ミニ大通まで歩いたり、玄関先のプランターを見に行くなど戸外に出る機会がある。また、中島公園へ紅葉狩りや農試公園へ花見、百合が原公園や動物園へ出かけるなど、戸外で楽しめる行事に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで管理している方が多いが、一緒に買い物に行き、好みの物を買ひ、支払ってもらう機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常時行っている。手紙や年賀状が届いたら、返事を書いてはと促す事も。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の行事の写真の貼ったり、季節の展示物を一緒に作り飾っている。湿度や温度などにも気を配り、清潔を保てるよう努めている。	居間には一帯が見渡せる開放感のある大きな窓があり室内が明るい。浴室の手すりも多く安心感がある。エレベーターホールや廊下は広く、居間やホールのソファで自由に寛ぐ事ができる。加湿器も設置しており、適温適湿で快適に過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でじっくり新聞を読んだり、ソファに並んでテレビを観たり、皆が一つのテーブルに集まり雑談したりと場面場面に合った空間が作れている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は主にご本人とご家族に任せ、その人に合った居室作りになっている。それでも危険がないよう、場合によっては配置を替えたりして工夫もしている。	洗面化粧台が設置されている部屋に、利用者ごとに使い慣れた家具の他、仏壇やテレビ、家族の写真などを飾り、居心地よく安心して住むことができる居室になっている。ベランダが広く開放感があるので部屋が広く感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアにはそれぞれ表札、浴室・トイレにもわかりやすいイラストの案内を表示。目に付くところにカレンダー、時計を設置、新聞も自由に読めるように置いている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 うらの郷ミニ大通・グループホーム

作成日：平成 28年 3月 8日

市町村受理日：平成 28年 3月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	地震や水害など、火災以外のマニュアルはあるが、全職員での定期的な確認は行っていない。	会議の場などでの定期的な確認を行い、全職員の意識を高める。	月例会議で当施設のマニュアルの確認を行う。又中央区で配布されている防災パンフレットも使い、確認し検討する。	半年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。